

平成28年北栄町議会議員研修報告書

1. 日 時	平成28年8月4日～5日 1泊2日
2. 場 所	全国市町村国際文化研修所
3. 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「医療機関・住民とともに地域医療を支える取組」 (講師:自治医科大学地域医療学センター長 梶井英治) ・「地域まるごとケア (医療の現場から)」 (講師:東近江市永源寺診療所 所長 花戸貴司) ・「介護予防の公的責任と自治体」 (講師:埼玉県和光市保健福祉部 部長 東内京一) ・「地域を健康にするまちづくり-Smart Wellness City-」 (講師:筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻教授 久野譜也)
4. 意見・感想	<p>「医療機関・住民とともに地域医療を支える取組」 (自治医科大学地域医療学センター長) 地域医療を守り育てるには、医療者、地域、行政、議員が一緒に取り組まなければならないという点で、地域力が必要であり、特に住民の理解と行動が重要と感じた。</p> <p>「地域まるごとケア (医療の現場から)」 (東近江市永源寺診療所 所長) 在宅医療は、医師一人ではできないが、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、ホームヘルパー、デイサービススタッフ、ケアマネージャー、行政、家族、ご近所の方などの他職種連携ができれば、寝たきりや認知症であっても、老夫婦、一人暮らしであっても在宅で生活することは可能である。 この点で、本町の場合、多様な医療機関を利用している現状において、医師との連携を日常的にどう実現するのが課題に思える。</p> <p>「介護予防の公的責任と自治体」 (埼玉県和光市保健福祉部 部長) 介護ニーズのアンケート調査は、記名でおこない未回答の人を全員訪問。また、検診未受診のところにはすぐに訪問するようにしている。そこにこそ、問題を抱えている住民がいて、課題や解決策が見えてくるからだ。また、いきいきサロンは、参加した人の身体機能を見ることで、必要な機能訓練にむすびつけてい</p>

る。

この点は、本町の取り組みに活かすことができると感じた。

「地域を健康にするまちづくり-Smart Wellness City-」
(筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医療専攻教授)

高齢になっても、倒れない体作りが中年期から必要。そのために、歩きやすいまちづくり(生活の中で自然に歩くように仕向ける)も必要。そして、歩くだけでは予防できないので、食事、歩く、筋トレをバランスよく持続しておこなう大事である。

しかし、前述の重要性を伝えられない無関心層にも届く情報提供の仕組み作りが必要であり、成功例として、ロコミがあげられていた。

この点では、本町でも情報が一方通行で、どれだけ伝わっているか疑問なところもある。町民の理解と行動なしには、成功しないので、検討が必要と感じた。